

課題に取り組み「室」を紹介します

家庭相談室

新聞やテレビで報道される児童虐待や少年事件の数々。子どもを持つ親は、「何故？」と子育てに迷ったり、自信を失ったり、心を痛めているのではないだろうか。

このような社会情勢の変化に対応すべく、児童福祉法が改正され、児童の相談はまず市町村で行うことになりました。具体的には、子育て支援に関する「障害児・不登校・非行・虐待などに関する相談です。」家族からの相談はもちろんのこと、地域の方が、虐待の心配がある子どもを発見した場合は積極的にお知らせください。緊急の場合は、休日・夜間を問わず、対応いたします。佐渡が子ども笑顔あふれる島になるよう、微力ながらお手伝いをいたします。

佐渡空港整備対策室

佐渡空港整備対策室の紹介をさせていただきます。職員は室長1名、係1名と佐渡地域振興局港湾空港庁舎に派遣されている1名で業務に取り組んでいます。

業務内容は、佐渡空港滑走路を現在の890mから3kmに拡張し、東京3往復、大阪2往復、名古屋3往復の空路開設を目指し、現在、地権者との交渉を続けています。

佐渡産業の活性化と島民利便の向上を図るために、早期開港目指し日々努力していきま

帰国家族支援室

7月から事務所が両津支所から本庁企画情報課内に移りました

帰国家族支援室が設置された経緯を簡単に説明しますと平成14年9月17日、日朝首脳会談の席で北朝鮮側が日本人拉致を認め生存者とされるリストの中に「ソカドミ」の名前がありました。その後、10月15日に帰国することが決まり、当時の真野町役場では受け入れ体制を整えるため、関係機関との調整を図り、総務課を中心に職員が奔走しました。佐渡への帰郷を果たした後、そのまま佐渡で家族を待つ決心をした彼女を1日も早く地域環境に適応させるため本格的な支援体制を整えることとなり、平成15

年4月1日、正式に「帰国家族支援室」として役場内に設置されました。

現在、室長と係1人、相談員の3人体制で曾我家の支援に当たっています。設置当初は彼女を含む家族全員に対しての帰国被害者等自立支援カリキュラムを組んでいましたが、ひとみさん本人は24年間のフランスがあつたといえ、すぐに環境に適応できたので、今現在においての主な支援業務は、ジェンキンス氏および二人の娘たちの生活全般の支援です。特に地域環境への1日も早い適応を促すことが急務で、子どもたちは新潟大学国際センターで日本語学習を行っており、順調に環境へ適応してきていますが、ジェンキンス氏は高齢でもあるため、言語の面でまだまだ時間がかかると思うので、細かな部分は妻であるひとみさんと連携を取りながら我々のできる範囲内で支援していくと考えています。

今後は、一緒に拉致されたと思われる母親の「ヨシさんの安否確認を、引き続き関係機関に働きかけ、他の不明者同様早期解決に努めていきたいと思っております。

主要地方道 佐渡一周線道路改築事業(仮称) 黒姫トンネル工事安全祈願祭・起工式

待望久しかった主要地方道佐渡一周線の、黒姫地区と虫崎地区を結ぶ(仮称)黒姫トンネル工事の安全祈願と、起工を祝う式典が6月7日(火)、国・県・市・工事施工者ならびに地元住民など関係者約60人が出席し行われました。

トンネルの総延長は1,759m、幅員7mの道路が新設される計画で、総事業費約55億円で平成21年3月に完成する予定です。

これまで落石や土砂崩れの危険など、たびたび通行規制のかかる区間であり、日常生活などに大変不便をきたし、早期着工が待たれていました。

トンネルが整備されることにより、地域の方々の安全と安心が確保され、市の観光産業をはじめ地域経済の発展に大きく貢献するものと期待されます。



(仮称)黒姫トンネル掘削残土の搬出について(お知らせ)

トンネル掘削残土の運搬期間、運搬時間、搬出先は次のとおりです。皆様のご理解とご協力をお願いします。

運搬期間 / 平成17年7月中旬～平成19年5月下旬(予定)

運搬時間 / 午前8時30分～午後5時30分

- 残土搬出先
- ・虫崎 県道佐渡一周線虫崎トンネル鷲崎側
 - ・羽吉 駒坂地内
 - ・加茂歌代 赤井地地内

地図 トンネル位置、残土搬出先



運搬は、朝の通勤や通学の時間帯を避け、歩行者や一般車両を優先に安全を確保し、道路を汚さないよう行います。

問い合わせ先 / 佐渡地域振興局 地域整備部道路課 ☎74 3393 または 市役所両津支所 建設課 ☎27 2117